

個性に磨きをかけて

OB・OGの皆さん、私たちへの応援をよろしく



会場をわかせた対談

女子学生のための激励会

常識、魅力そして感性

完璧めざす必要ない

「ウイングの会」女子学生対象の就職のためのセミナー「ウイングの会（旧つばさの会）」が2月6日、駿河台会館で開かれた。女性白門会のOBが後輩の就職をバックアップするために、毎年行っている。

この日は、先ず採用・就職アドバイザーの鈴木賞子氏の講演から始まった。「最近の就職活動のほとんどはデジタル活動ではなく、アナログ活動である。エントリーをインターネットで応募するのが普通になってしまったので、その後の就職活動もインターネットで、と思う学生が多いようだ、実際はアナログ活動が主流だ」といわれた。

話はさらに「企業の情報収集の一つを取っても、ホームページだけでは情報が少なすぎる。企業の客観的

データをきちんと『会社四季報』のような本や就職雑誌で調べることが大切だ」とアドバイスがあった。

そして「企業の見方」としては、次の5項目をあげてくださった。

- ① 人事を通して、企業を見る（人事担当者は企業の顔だから）。
 - ② 人事を通さずに、企業を見る（人事担当者は企業の顔だから、良い人がいて当然だが、企業の全体像だと不透明な場合がある）。
 - ③ 店舗を通して見る（ショールームなど、現場の人と話してみる）。
 - ④ 電車の宙づり広告を見る（企業の世間からの評価がわかる）。
 - ⑤ OG・OB訪問（この機会に企業以外の話を聞いておく。業界の話など、幅広いアドバイスもいただく）
- 次いで千葉経済短期大学教授で白

門会支部長の藤本幹子氏と、中大就職部長の明念一雄氏の対談が始まった。藤本先生は、「まず元氣、新しさ、そして若さ。完璧でなくてもいいんですよ。だれも期待していないのですから」といわれたあと、「面接で見られるところは、1に人柄、2に資質、3に感性。一番大切なのは常識、そして魅力と感性。自分の笑顔を自信を持って送り出すのよ」との説明に、会場の学生からも笑い声がもれる。「いいですか、自分の持っている個性を、もうひと磨きかけること」と、熱いエールを送った。

最後に明念就職部長からは「スケジュールを自分で管理し、万全を期すこと。戦力・戦術をたてて戦う。戦うからには決して最後まで諦めないように」と、厳しい現実を含んだ内容となった。

9社から14人の音研出身者

【音研の就職セミナー】10の音楽系サークルが所属する音楽研究会の新4年生を対象にした就職セミナーが2月3日、多摩キャンパスで開かれた。企画は、当の新4年生。さまざま



後輩に業界説明をする音研OB

どの企業に入るかではなく
会社でどういう生き方をすることが問題

まな職場に勤める音研のOBに話してもらうことで、就職活動へのきっかけにすることを目的としている。このイベントは7年前から続き、例年は3月に行ってきたが、就職活

動が年々早まる傾向になっているので、こしは2月に繰上げて開催した。メーカー、食品・流通、IT、建設、医療機械、レコードなど、有名企業9社から14人のOBの方が出席された。

企業の方の冒頭の挨拶で、「学生たちは、みな素材である」という話

があった。つまり、入社してすぐに役立つとみている企業は少ない。むしろ、企業に入ってから素材をどんな育て、企業の戦力となっていくのである。また、「私が良い企業と考えるのは、ひとつは自分がその企業に入って自分が成長できること。もうひとつは自分がその企業に入って、企業が成長できることだと思います」と熱っぽく話されていたのが、とても印象的だった。

特に業界説明、自社説明では、どの企業も共通して訴えていたのは、「考える力をつける癖をつけるように」「自分から積極的に働きかける能動的な人間になるように」といったところだった。「会社に入って、どういう生き方をすることが問題なのであって、どの企業に就職するかが問題ではない」との目の覚めるような鋭い指摘もあった。

午後には、希望する企業の方との模擬面接が1人30分も行われ、学生にとっても密度の濃い内容となった。セミナー発起人の石井部長は「この会は音研のセミナーであるが、誰が参加してもいいと思う」と話されていた。

(学生記者・真田季実子)